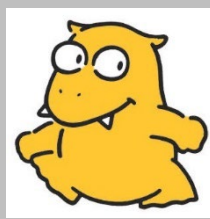


# 瑞浪市の観光客を増やすために

## 瑞浪市のインスタグラム改善



波佐見町  
Instagram



瑞浪市  
Instagram

### 何故その活動を行うのか

私達は、一年次では陶の魅力を伝えるための動画を作成し、二年次では竜吟の森のPR動画を作成し、ふれあい館のInstagramに投稿していただきました。その中で、事前にインターネットで調べたり、その場所で行っている人にインタビューしたりして、伝えたいことをまとめ、動画を撮り、編集する力を身につけました。ですが、作成した動画を見ても多くの人に魅力が伝わらなければ意味がないと思い、瑞浪市のInstagramを改善し、多くの人に見てもらうことを目標にしていきました。

### 実際に行ったこと

四月：どんな活動をするかの話し合いました。  
五月：市役所訪問をしました。  
六月：瑞浪市のInstagramと他の市のInstagramを比較していく中で、瑞浪市と特産品が陶器という点で似ている、人口は瑞浪市より少ないのに、フォロワーが約十倍の長崎県波佐見町のInstagramを見つけました。

### 活動の成果

七月：波佐見町のInstagramを目標にするために、波佐見町への質問を考えました。  
九月：波佐見町とのメールでのやり取りをはじめました。  
十月：波佐見町とのメールでのやり取りでわかったことを市役所に報告しにいきました。



#### 私たちの想い

瑞浪市の観光客を増やすために、Instagramの改善を目標に活動してきました。私たちの力では改善することはできませんでしたが、今後の瑞浪市のためになれば嬉しいです。

波佐見町の方とやり取りをしていく中で波佐見町は投稿の作成担当がいて業務の五割をInstagramに費やしているということや投稿は波佐見焼ファンや観光客をターゲットにしているということが分かりました。フォロワーを増やすには、制作する時間とターゲット層を明確にすることが大切だということが分かりました。

私たちの活動が今後の瑞浪市のInstagramの改善のきっかけになればいいと思います。



# 夏の寺子屋

子供たちと触れ合い  
地域を盛り上げていく



## 何故その活動を行うのか

一年次では陶町の「うさぎ岩」をPRし、二年次から「Mビル」を活用した取り組みを実施しました。

夏休みは、子供たちにとって自由な時間が増える一方で生活リズムや、学習習慣が乱れやすいです。また一学期の学習内容の定着が不十分になる時期でもあります。そこで寺子屋を行うことで学習意欲の維持と学びの継続を目的としました。さらに子供たちにとって安心して過ごせる『居場所』となり、学びと人のつながりを両立させた場を提供することを目的としてこの活動を行いました。

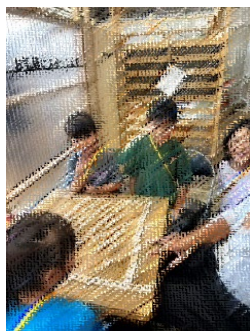
## 実際に行ったこと

私たちは夏休みの一週間Mビルで夏の寺子屋を行いました。日時は七月二十八日～八月一日で、朝の九時から十二時までです。

具体的な活動内容は、小学生の子たちに夏の課題を教えることです。

また、勉強だけでは子供たちの集中力が切れてしまうので、私たちが考えた簡単にできる遊びや、理科の実験などを行いました。

活動した結果、参加者を対象としたアンケートから『また来年もやってほしい』という声や『たのしかった』という声が多くみられました。その中で『午後もやってほしい』という声がみられ次への改善点も見られました。



この活動をしていく中で子供たちと触れ合い進めていく過程でとてもやりがいを感じました。

## 活動の成果

子供たちに勉強を教える中で、小学生特有の考え方や、共働きの家庭事情を知る機会になりました。

私たちが想像している以上に地域の問題は深刻化していると感じた。ともに、小学生の元気はつた。なエネルギーを感じました。初日には勉強が楽しくないと言った子供も、最終日には勉強が少し楽しく感じたと発言してくれました。

この活動で学んだことを高校で生かすという目標をもち、大学や就職先で今後この活動の継承も考えています。この地域で活動するだけでなく、地域外の活動範囲を広げていくことが大切です。



## 私たちの想い

探究活動を通して、考えたことを行動に移し、発信していくことの大切さと、責任感を感じました。これらのことをたくさんの人に体験してほしいです。



# 夢のツリーハウス！からの キャンプ場設置へ！



舟競



セグウェイで散歩



10月25日 小里川ダム敷地内の様子～当日は4組9人の方々が来場しました！

## 原点ツリーハウス構想

私たちは二次次に、瑞浪市の自然豊かで広大な土地を活用することに視点を置き、「ツリーハウス」を造ることを考えていました。NPO法人LE TUSの加納さんからの紹介で、日吉町のグランピング施設「むすび」さんを取材しました。この時、「グランピング」とは異なり、個人で準備するものの多い「キャンプ」で必要なモノや設備の条件などを学びました。このことが偶然、次年度での活動に生きてくることになったのです。

## キャンプ場を企画する

「小里川ダムFESTAの企画・運営に参加しないか」三年次に上がってから、そんな声かけをされ、私たちは、ツリーハウス構想を保留し、この企画に挑戦することになりました。コンサルタント会社の方々と話し合いを重ね、準備をすすめました。私たちが当日行ったことは次の2点です。

①利用者さんが施設を利用するための案内と注意事項を受付で全て口頭で確認した後、注意事項を書いた紙を配付する。

②駐車場の整備と誘導案内

当日はセグウェイや、テントサウナが置いてありキャンプに来た方々がよりキャンプを楽しめる工夫がされていました。私たちもセグウェイやサウナを体験させてもらい、有意義な時間を過ごすことができました。

## 活動の成果と

### ツリーハウス案の引継

私たちは「ツリーハウスを造る」という構想のもと「仮設キャンプ場の設置」を実現しました。当日参加してくれた方は4組9名。現地は自然豊かでとても過ごしやすい雰囲気でした。

実際に他の県や都市から人が訪れる現場に居合わせて、利用者一人ひとりが安心して楽しめるよう、細かな配慮や臨機応変な対応が求められることを実感し、運営の責任の重さを学びました。また、キャンプ場は単なる宿泊施設でなく、人と地域をつなぐ大切な場所であると感じました。

ところで、グランピング場「むすび」さんからは「(敷地内)このあたりならツリーハウスの設置が可能かも」という場所を紹介していただいています。私たちはツリーハウスの設置を実現することができませんでしたが、後輩の皆さんが私たちの経験をもとにこのアイデアを引き継いでいってくれたらな、と期待しています。



### 私たちの思い

実際にツリーハウスを造ることは叶わなくても、自然体験という一つのイベントに取り組めたことを誇りをもって瑞浪の活性化を考えていきたいです。



# NATURE × SAUNA

## 大自然で『ととのう』



### 瑞浪市を盛り上げたい！

○私たちの活動の全ては、瑞浪市を活性化させたいという思いが源流にあります。一年次では、近頃、若者を中心に流行しているサウナを瑞浪市に作り、市外から若者を集めようと構想を練りました。二年次では、それを実際に実現させるために、資金、土地、運営の仕方などについて調べました。

○これらの活動を通して、課題解決能力が身に付きました。

### 実際の活動

・白狐温泉今井屋にてサウナの見学

(二〇二四年五月二十九日)

・小里川ダム周辺の見学↓設置場所の検討のため(二〇二四年七月十日)

・小里川ダムフェスタのサウナブースにて、運営

設備 バレルサウナ、テントサウナ、水風呂、整いスペース

(二〇二五年十月二十五日)

### 探究活動で得た物

○プレゼンテーションや、設置場所の下見、温泉施設への取材を経て、瑞浪市に自然を楽しめるサウナを設置できた。

○コンサル会社へのプレゼンテーションや、市役所の方との活動を通して、様々な能力(資料作成、プレゼン、コミュニケーション能力)が身についた

○後輩の活躍にもよるが、実現させれば間違いなく瑞浪市をより魅力的にしてくれる活動です。探究活動を実現させるためには、何よりもまず行動することが大切です。頑張ってください。



### 私達の想い

何か一つのプロジェクトを完遂する過程では、様々な人の協力が必要不可欠なんだと体感しました。その出会いにも感謝して、また、その大変さも覚えておいて、今後の人生に生かしたいと思いました



# 岐阜瑞浪サブレ

半原力ボチャで地元活性化

地元の特産品を通して  
地元を活性化



植付



収穫



ねんりんピック



瑞浪バサラ



農業祭

何故その活動を行うのか

瑞浪市半原地区は高齢化、過疎化が進んでいます。歴代の先輩方は地元伝統野菜である「半原かぼちゃ」を使って、少しでも人々に半原地区を知ってもらおうと活動してきました。私たちも、令和6年度に開発した「岐阜瑞浪サブレ」の販売を軸に、数々のイベントに参加し、PRを行いました。

岐阜瑞浪サブレとは

恵那の川上屋の方針である地元活性化商品の開発のもとに、半原かぼちゃと日吉さんお大豆を使った大竹醤油醸造場の味噌、地元酒造である中島醸造の酒粕とを使った、大人から子供まで食べられるサブレです。パッケージには地元イラストレーターの中山尚子さんに、半原かぼちゃのイメージした隠し絵をデザインしていただきました。

## 活動内容

① かぼちゃの植え付け・収穫  
4月29・30 7月20日

② 広報・販売活動

・明世ホタルナイト（広報のみ）  
かぼちゃたたきゲームやシール、パンフレットの配布  
6月21日

・ねんりんピック・市役所  
2月20日

・ミラスポ11月9日・校内

・きなあた農業祭 11月16日

・瑞浪バサラ祭り 12月14日

・卒業制作実践活動発表会  
1月23日

・バレンタインマルシェ 2月9日

## 活動の成果

イベントでは販売目標個数を達成することができました。また、『お土産に』とサブレを認識していただくことができました。

そして恵那川上屋ブランドにより、半原かぼちゃの販売ルートができ、生産者が少し増えました。



私の思い  
瑞浪のお土産とし  
てもっとサブレが広  
まってほしいです。  
そしてこの活動をぜ  
ひ続けて欲しいです。



# ミライ創ろまい課

## イベント編



## 活動の概要

ミライ創ろまい課は、瑞浪市の高校生が中心となり、地域活性化を目的に活動する取り組みです。その中のイベントチームである私たちは若者ならではの視点で地域の魅力や課題を捉え、話し合いを重ねながらアイデアを出し、それを実際のイベントや企画として形にしています。

活動を通して、地域の方々や企業、行政と連携しながら、瑞浪市に関わる人を増やし、まちの魅力を内外に発信することを目指しています。

## 「ギネスに挑戦」に貢献

令和六年十月十三日、瑞浪市制七〇周年記念事業として「瑞浪世界一プロジェクト」が開催されました。本事業は、瑞浪市の特産品である瑞浪ポークを使用し、豚肉の最大試食会でギネス世界記録に挑戦することで、瑞浪市の魅力を発信する企画です。イベントチームは、来場者が主体的に参加し、楽しみながら瑞浪市に親しめるよう、イベントブースの企画・運営を行いました。ブースでは、ギネス記録にちなんだ「お米を箸で移すチャレンジ」や「フラッシュ暗算」、「お菓子つかみ取り」などを実施し、幅広い世代が楽しめる工夫をしました。当日は多くの来場者で賑わい、会場に一体感を生み出すことができました。

## 食文化で繋がる

瑞浪市ワーキングホリデーでは、参加者に瑞浪市の良さを知ってもらい、「住みたい」「また来たい」と感じてもらうことを目的に、五平餅づくり体験を行いました。活動に先立ち、大湫町の棚橋さんから伝統的な作り方を学び、地域文化への理解を深めたうえで当日の運営に臨みました。その結果、自分たちだけで協力しながら活動を進めることができました。一方で、参加者に瑞浪市の魅力を伝えきれませんでした。

私たちはこの活動に参加し、地域を活性化させることの難しさややりがいを感じ、まちづくりは深いなと思いました。この二年間で身につけた課題解決力、実行力を活かして進学先での学びや、社会に出たときの糧にしていきたいと思っています。



## 私たちの想い

私たちミライ創ろまい課3期生イベントチームは、地域が明るく、活発になるようなイベントの企画と運営したいという想いを抱いて活動してきました。

年間およそ40日に渡る活動は、とても有意義で、ほとんど欠席することなく参加しました。

# ミライ創ろまい課

## 特産品編

瑞浪市に新たな特産品を



## ミライ創ろまい課とは

ミライ創ろまい課とは、瑞浪市の高校生が中心となり、まちの魅力向上や課題解決を通して瑞浪市の未来を創っていくプロジェクトです。

## お米にした理由

『瑞々しい稲穂が、そよぐ風の中で揺れ、黄金の波のように見える』という瑞浪市の名前の由来に立ち返り、お米の特産品開発が企画されました。商品開発のための協力を引き受けてくださったのは陶町の料亭「きん魚」さん。シェフの永井さんからの「今までになく、取り組む価値のあるものを」というテーマが提示されました。私たちはこのテーマをもとに、商品の概要について話し合い始めました。

## オール米ティー

当初は「お米の佃煮」が斬新なアイデアだ採用していただきましたが、試作品を重ねる中で佃煮から万能タレへと変更しました。

味については、子供のころに食べた懐かしい味をベースに「甘じょっぱい味」に決定しました。またパッケージにもこだわり、協力していただいたシェフの店名でもあるきん魚を取り入れました。商品名については、山田遼生さんの『オール米ティー』が採用

されました。

さらに販売の際商品の説明ができるよう、たれを使ったメニューの試作をしました。

野菜炒めや茶わん蒸しなど、名前の通り万能タレを制作することができました。

八月十八日のお米の日に合わせて発表し、きなあた瑞浪やきん魚での販売を開始しました。

## 培ったこと

私たちはこの活動を通して、商品制作のリアルを知ると同時に、発想力や対応力を身につけました。私たちが理想とする味や食感をシェフが完全に再現することは難しく、叶えられない要望もありました。実際に形にすることで新たな課題に直面することもありました。この繰り返しの中で、幅広い視点からものごとを考えていく力を養うことができました。

ミライ創ろまい課は今後、『生活の木』とコラボして瑞浪市活性化を目指して活動します。この活動を通して身につけた力を普段の生活、将来の夢につなげて生きていきます。



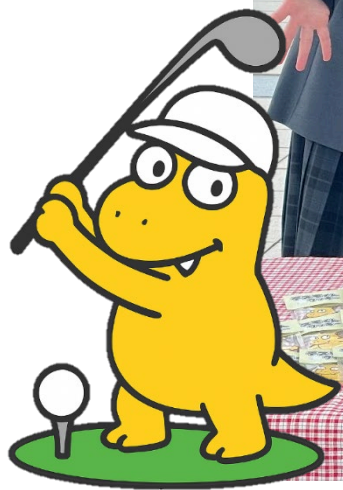
## 私（たち）の想い

今回開発した「オール米ティー」が、手に取っていただいた消費者の思い出に残り、まちに戻ってくるきっかけになったらうれしいと思います。ミライ創ろまい課に所属してよかったです。



# デスモくんを 広めよう

デスモくんを瑞浪で  
広めよう



## 何故その活動を行う のか

私たちは、瑞浪市をもっと多くの方に知ってもらいたいと思い、地域のキャラクターを使った活動に取り組みました。一年次にはすえっこ君のクリームパンを提案し、二年次にはデスモくんクッキーを考案しました。市役所にキャラクターの許可をもらったり、クッキーを形にしてくれるお店を探したりして、実際に販売まで行いました。

## 実際に行ったこと

クッキーの案を絵で描き、洋菓子店を開いているtoi toi toiさんに実現ができるか伺ったところ、快く受け入れて下さりクッキーを形にすることができました。さらに、セラミックパーク美濃で開かれたシュシュマルシェでtoi toi toiさんと提携して出店先にお邪魔させていただき実際に販売することができました。

## 活動の成果

デスモくんを広めるために、クッキーを提案し実際に販売まで行い、五十枚すべて完売することができました。お菓子のレシピ、イラスト考案から、実際に制作販売までたずさわられたクッキーが売り切れて本当に良かったと思うし、とてもいい経験になったと思います。

その後は、SNSで広めるために、画像制作を行い、瑞浪市と関連させた画像を生成しました。（左上の画像）

今後の活動ではSNSの開設や投稿を行い、さらにデスモくんを生かし瑞浪市の発展につなげていきたいです。



### 私（たち）の想い

デスモくんを広めると共に、瑞浪市も多くの人に知ってもらい、発展につなげていきたいです。



# 陶器を用いて 盛り上げる

瑞浪の魅力  
陶器を用いて伝えたい



何故この活動を行っているか

瑞浪には沢山の魅力あふれる産業や特産品が存在する。これらを知ってもらおうきっかけにしたいと思い、陶器に注目して盛り上げるための活動を二年間行なった。

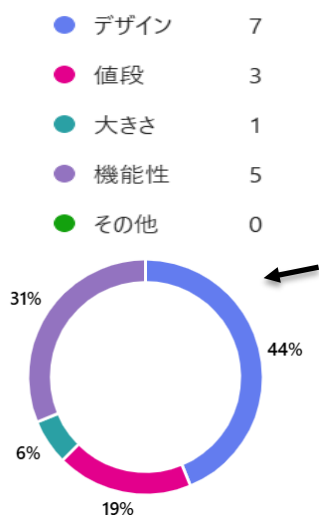
## 実際に行なったこと

二年次では二月九日に瑞浪の駅前行われた株式会社ヤマニさんの協力のもと販売活動を行った。

三年次では六月二十一日に行われた明世ホテルNIGHTにて販売に生かせるようなアンケートを実施した。

陶器に関する質問をして前回の販売から改善点を見出すきっかけになった

アンケート項目 食器を買う際、重視するポイントは何か



## 活動の成果

二年生では、販売するための値段設定、商品の魅力を伝えるようなポップづくりを行った。六時間販売し一万円以上の売り上げを上げることができたが、陶器の魅力が伝わったのかは分からなかった。

三年次ではイベントに訪れた人の年齢層や住んでいる地域などを質問し、把握することができた。

三十代の方が多かったことや愛知の江南市からも訪れている人がいることが分かった。

これらを通してどんな陶器を販売すれば多くの人に手に取ってもらえるか、どんなデザインの陶器が好まれているかなどの改善するべき点を見つけた。陶器の作り方や色の付け方などこの活動を通して陶器について興味がわいた。

## 活動に対しての想い

この活動を二年間おこなってき普通では体験できないことや学ぶことができたことなど様々なことを行うことができ自分の成長につながった。





# 猫と人をつなぐ 場所

野良猫を少しでも減らす



## 何故その活動を行うのか

行き場のない命を救いたいという思いから、この保護猫活動を行っています。現在約千二百匹の猫が保護されており、そのうち約三百六十五匹が殺処分されていることを知り、猫が安心して暮らせる場所を見つけてあげたいと感じました。また、この活動を通して、多くの人に保護猫の現状を知ってもらい、関心を持ってもらおう思っています。

## 実際に行ったこと

六月二十二日、CATwalkさんで行われた譲渡会でどんな猫がいるのか、どのような来場者がいるかを見してきました。十月二十六日、来場者の方にアンケートを取りました。また、前回と同じでどんな猫がいるか確認してきました。

- アンケート内容
  - ・猫を飼っているか
  - ↓七十%の来場者が猫を飼っている
  - ・何歳の猫を飼いたいのか
  - ↓一歳未満の猫を飼いたい人が多い

結果  
来場者数 四十二名  
参加猫 十三匹  
譲渡された猫 四匹

## 活動の成果

実際に譲渡会に参加して、身近なところでもたくさんの猫が保護されていることを知ることができました。また、アンケートを通して、地域の方に野良猫の現状を知ってもらうことができました。これまで野良猫は「かわいそうだけどどうしようもない存在」と見られがちでした。しかし、保護猫活動を知ってもらい、実際に譲渡会で猫たちと触れ合ってもらいました。活動を通して、私たちの保護猫への理解が深まりました。卒業後も自分たちのできることに取り組んでいきます。



### 私たちの想い

保護猫はたった1匹かもしれない。それでも、その1匹にとってはすべての世界が救われると思っています。



活性化させよう！

## A close-up photograph of a single dumpling, likely a gyoza, with a sad face drawn on its side using black marker. The face has two large, dark circular eyes, a small, curved line for a nose, and a wide, downward-curving mouth. The dumpling is light brown and has a pleated edge. It is resting on a surface with a blue and white patterned background.

ねんりんピックで一〇八〇円以上の購入の方に配布

## 瑞浪高校3年次生 地域探究すえっこサンドチーム



# 瑞浪グルメの

## PR活動

瑞浪のグルメをSNSやチラシに載せてみんなに広めたい



### 陶町の店を活性化

○一年次の活動

陶で開催されるイベントに陶町のお店の商品を出したら、こんな店があったのかと知ってもらえると思います。実際にオカリナ制作ができる店と、多肉植物店に行ったら。しかし、気温関係や粘土を焼かなければならないことからイベントに出すことが難しかった。

### 瑞浪市のグルメをPR

二・三年次では陶町から瑞浪市に範囲を広げ、瑞浪市の飲食店のPRに変更した。

二年生では、瑞浪駅近くの8 cafe、魚徳、Café福を取材し、インスタグラムに投稿した。しかし費用がかかる点や、飲食店に行く時間がなく、なかなかインスタグラムを更新することができず、三個しか投稿することができなかった。フォローしてもらっている八人に見てもらったが反響はなかった。

### 活動の成果

三年次では、観光協会に行き、パンフレットの改善点を伝えた。二〇二四年から更新されていなかったことから、正しい情報が載っていないため、更新してより良いパンフレットを作れるように提案した。しかし、十年に一回しか瑞浪市のパンフレットが更新されないことが分かった。瑞浪市の飲食店をたくさんの人に知ってもらうために活動した。思うとおり活動ができなかったけれど、コツコツとインスタグラムを更新したり、観光協会にパンフレットの更新をお願いしに行くことができた。今後は化石食堂のお店のチラシを作って駅前などの人の目に留まりやすいところに貼ってもらうことを目標に活動を頑張りたい。



#### 私（たち）の想い

瑞浪を盛り上げるために飲食店をたくさんの人に知ってもらえるよう活動してきました。お店に行く時間がなく、3件ほどしかPRできていないので、このグルメのPR活動を続けてくれる人がいたらうれしいです。



# はちみつ広め隊



高校生が養蜂を行うことで  
瑞浪市のはちみつを広める



## 何故その活動を

## 行うのか

私たちは一年次で、陶町の工芸品である陶器のお皿に着目し瑞浪市周辺地域に陶器の魅力伝える活動をしました。

二年次では陶器のお皿を飲食店等で活用してもらうべく様々なアイデアをグループ内で話し合い、話し合った結果瑞浪市のはちみつを用いたスイーツを陶器のお皿に乗せて提供することで陶器と瑞浪市の特産品であるはちみつの魅力を知ってもらうため活動しました。

## 実際に行ったこと

・瑞浪市の堀養蜂園蜜や訪問  
二〇二四年十月十一日に  
事前に考えたはちみつスイーツのレシピを見てもらい価格や材料、販売する場所についての改善点を出していただきました。

・下石ファームでの養蜂体験

八月六日、七日

実際にエサやりと巣箱の手入れを通して養蜂の魅力加藤ファームさんで養蜂体験として自然とともに深くつながれることを知るとともに、質問を通して季節によって糖度に差があることや、気温によって採れる蜜の量に差があることなどの養蜂の知識を身に付けることができました。

## 活動の成果

私たちの活動での成果は、養蜂について知ることができたが、資金面の課題や安全面などの課題があり、それを解決できなかったため学校で養蜂することができませんでした。



## 私たちの想い

3年間を通して活動を成功させることの難しさを知りました。はちみつについてあまり知ることがなかったが、この活動を通して知ることができ、もっと東農地区のはちみつを広めていきたいと思った。



# 小里川ダム ライトアップ



## 何故その活動を行うのか

一・二年次では瑞浪市の企業とコラボし、はちみつプリンをつくろうと活動していました。しかし、制作費などを考慮し販売価格を考えた結果、商品化が難しいという考えになりました。3年次ではアドバイザーさんと話し合い小里川ダムで行われるライトアップイベントに取り組みました。

## 実際に行ったこと

十二月十三日のライトアップで使う灯籠を夏休み中に陶町の与左衛門窯に作りに行きました。イベント当日にマシュマロを配布しスウェードントーチで焼いて食べてもらおうと考え、実際に焼けるかを検証しました。

イベント当日は私たちがマシュマロを焼き、来場者に声をかけ無料配布しました。その際にライトアップの宣伝をしました。

## 活動の成果

ライトアップイベントで並ぶ灯籠を実際に自分たちで作り、灯籠の並べ方を考えました。並べ方が来場客から好評で、おりベネットワークにも放送されました。また、マシュマロを無料配布する出し物を行いました。実際にイベントを行い来場者と会話をし、地域交流をすることができました。しかし、イベント自体の認知度が低いため来場客を増やすきっかけには繋がりませんでした。

今後の課題は、イベントの認知度が低かったと考えているため、来年以降はポスターを作るなど告知をするべきだと考えました。



**私（たち）の願い**  
イベントを盛り上げることで観光客が集まり、瑞浪市が注目を集めるきっかけになります。私たちのアイデアで魅力的で住みたくくなるような街にしていきたいです。